

フラッシュカードを使って みよう

— 効果的な語彙指導とは

望月正道 Mochizuki Masamichi
(麗澤大学)



1. はじめに

英語の母語話者は、書かれた単語を最初の2文字と全体の形で認知していると言われています。book という単語は bo■ のように認知していることとなります。このような認知方法を念頭におき、英語母語話者の単語の認知速度を速めるための教具として開発されたのがフラッシュカードです。最初の数文字と単語全体の形で認知できるように、フラッシュカードを flash させて読ませる練習をさせるのです。生徒には何も書かれていない裏を見せておいて、一瞬だけ表を flash させて、単語を認知させる練習をするのが、本来のフラッシュカードの使い方です。しかし、これは英語を母語とする子供の単語の読み方を容易にするためのものです。単語の発音も意味も知らない日本の中学生にふさわしいフラッシュカードによる単語の導入と定着練習を考えてみましょう。

2. フラッシュカードによる単語の導入

導入は、単語の発音、綴り、意味の3つを教え、生徒にその結びつきを理解させることです。たとえば、18NC Book 3のLesson 6 “I Have a Dream” では、judge という単語が新出語として使われています。表に「judge」、裏に「判断する」と書いてあるこのフラッシュカードの表を3秒ほど見せます。つぎに、裏を2秒ほど見せます。再び表を見せて、[dʒʌdʒ] と発音して、聞かせます。その後、教師の後をリピートさせ、発音を練習します。発音できるようになったら、どういう意味だったかを聞いてみます。「サッカーのジャッジは審判だね。審判は、プレーに反則かどうか判断するね」

のように生徒の知っている知識と新語を結びつけられるようにすると、効果的に覚えられます。

日本語にはカタカナ語としてたくさんの英語が入ってきています。このような語は、日本語から聞いてみるのがよいでしょう。たとえば、同じ課に police という新出語があります。「警察」というフラッシュカードの裏を見せて、「英語では何て言うかな?」と聞いてみます。生徒は「ポリス」と言うでしょう。フラッシュカードの表を見せて、「そうだね。ポリスだね。でも英語の発音はちょっと日本語と違うから気をつけてね。[pə'li:s] となるよ。一緒に言ってみよう。[pə'li:s]」。カタカナ語は生徒のもっている知識をうまく利用して教えるようにするとよいでしょう。

3. フラッシュカードによる単語の定着

定着のためのフラッシュカードの利用は、導入した単語をまとめて覚えさせるためのものです。フラッシュカードの表の綴りを見せて、意味を言わせていく。逆に、裏の意味を見せて、発音させていく。この定着練習では、まずクラス全体で行い、その後、生徒一人ひとりを当てて、覚えているかどうかを確認していきます。

4. おわりに

単語の習得には繰り返しが大切です。その日導入した単語だけでなく、それまでに学習した単語をフラッシュカードで復習させることはさらに重要な活動です。定着のための活動は、1回の時間を長くするよりも、時間を短くして授業中に何回か繰り返した方が効果的です。フラッシュカードを上手に活用して、生徒の語彙学習を促進させましょう。